

ある、^{なつ あつ ひ}夏の暑い日。

^{のうじょう いけ}農場の池のほとりにある、^{しげ なか いちわ}茂みの中で、一羽のアヒルが、

^{たまご あたた}卵を温めていました。

まもなく、^{たまご ひと}卵が一つ、^{ひと}また一つと割れ始め、^{なか}中から^{きいろ}黄色い

^{はね}羽の、^{かわいらしい}かわいらしいひな鳥たちが^{かお}顔をのぞかせました。

「まあ、^こかわいい子どもたち」

^{かあ}お母さんアヒルは目を^め細めて、^{ほそ}ひな鳥たちの^{どり}羽を^{はね}くちばし
でつくろいました。

しかしよく^み見ると、^{どり}ひな鳥たちの中に^{なか}一羽だけ、^{ほか}他のひな
^{どり}鳥たちとは^{すがた}どうも^{ちが}姿の^こ違う子がいました。

^{ほか}他のひな鳥たちよりも、^{どり}ひとまわり^{からだ}体が^{おお}大きく、^{はね}羽の色も
^{きいろ}黄色ではなく、^{うすよご}薄汚れた^{はいいろ}灰色をしていました。



5

時が経つにつれて、だんだんと、そのひな鳥は、他の兄弟
たちからいじめられるようになっていきました。

「お前は、みにくいね。本当にぼくたちの兄弟なのかい？」

「お前みたいに変なアヒルとは、遊んであげないよ」

みにくいアヒルの子は、涙を流しながら、水面に映った
自分の姿を見つめました。

「ああ、どうしてぼくだけ、こんなにみにくい姿をしている
んだろう。みんな、ぼくなんていなくなればいいと思っ
ているんだ」

みにくいアヒルの子は、みんなの前から姿を消すこと
にしました。



One hot summer day, there was a single duck warming her eggs inside the bushes, by the farm pond.

Shortly after, the eggs started to crack one right after another, and from inside adorable ducklings with yellow feathers showed their faces.

"Oh, what cute babies!"

The mother duck gently cleaned the new born ducklings' feathers with her beak.

However, after taking a closer look, she realized there was a single duckling that looked different from the rest.

That duckling was bigger compared to the other ones and his feather color was a dirty gray instead of yellow.



25

Over time, as the duckling grew bigger, he started to get bullied by his siblings.

"You're so ugly. Are you really our brother?"

"We are not going to play with a strange duck like you."

In tears, the ugly duckling looked at his reflection on the water surface.

"Why only I look ugly. Everyone must want me gone."

The duckling decided to leave everyone.

